

H16 年 10 月型 (23 号台風) 降雨の検証

兵庫県 河川計画課

1 検証の必要性

これまで本委員会において、基本高水の議論がなされてきたが、その際に複数の委員から、昨年の 23 号台風降雨について「その降雨が棄却されるのは、疑問に感じる。」「単純に棄却していいのか。」「去年の 23 号台風の現場に立つ必要がある。」「異常気象に対応するには、23 号台風を検証する必要がある。」といった意見が出されてきた。

そのため、23 号台風の降雨パターンについて、詳細な検討を行った。

2 検証の方法および結果

(1) 検証方法

23 号台風の降雨パターンは、引き伸ばし後の 6 時間雨量が棄却基準値 (176mm) を 11.8mm 上回っている。そのため、ハイトグラフが棄却基準に適合するまで引き伸ばし率を引き下げ、棄却基準に適合したハイトグラフを用いて流出解析 (流出計算) を行う。

(2) 検証結果

- ・ 引き伸ばし倍率 1.305 倍
- ・ 計画規模 1 / 60
- ・ 計算流量 4,465(m³/s)

(参考) 他の降雨も含めた検証結果

以上の結果も踏まえ、棄却基準により棄却された降雨パターンについても同様に検証した。その結果を下表に示す。

降雨パターン	計算流量(m ³ /s) (引き伸ばし倍率)	計画規模	(参考) 1/100 流量(m ³ /s) (引き伸ばし倍率)
H16.10 型	4,465 (1.305)	1/60	4,883 (1.407)
H5.6 型	4,419 (2.357)	1/70	4,674 (2.478)
S44.6 型	4,469 (1.813)	1/80	4,671 (1.873)

平成16年10月18日型降雨 ハイエトグラフ・ハイドログラフ (甲武橋地点)

